

公募制推薦入学試験

〈出典一覧〉

- | | | |
|------|---|--------|
| 日 文 | 五木寛之 『人間の覚悟』 | 新潮社 |
| 歴 文 | 長谷川修一 『聖書考古学—遺跡が語る史実』 | 中央公論新社 |
| 心 理 | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書
http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/62/ | |
| ビジネス | 日経産業新聞社 日本経済新聞 2017年6月1日付「ダイバーシティ(1)「均質」脱却が競争力に(よくわかる)」 | |
| 会 フ | 日経産業新聞社 日本経済新聞 2017年9月22日付 夕刊「商業高校、実践力磨く、会計・簿記+ビジネス体験—
地域産業の担い手育てる(学ぶ)」 | |
| 国 際 | 高島俊男 お言葉ですが…〈2〉「週刊文春」の怪 | 文藝春秋 |

問題 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

日本でも根強い人気のあるプレスリーには賛美歌からとった歌が多くあり、ビートルズもルーツの一つにゴスペルという教会音楽を持っています。

テレビCMに使われたり、日本人がリクエストしたがる「アメイジング・グレイス」もやはり牧師がつくった賛美歌です。

ゴスペルソングは、リズム感があつて気持ちが高揚するということで若い人たちに人気がありますが、ゴスペルとはあくまで教会で告げられる福音であり、また黒人たちの霊歌です。いずれも音楽や人種問題などさまざまな要素が混ざりこんで変容していますが、根本的にはキリスト教の神を讃えたものなのです。

仏教にも、巡礼のときに歌う御詠歌というものがありますが、一般にはうたわれていません。しかし、たくさんの日本人が神と神の子キリストに対する信仰に気づかぬまま教会で結婚式を挙げ、あるいはゴスペルを歌うというのは、いったいどういふことなのでしょう。

形の上では似ていても、神の栄光、神の愛を歌う音楽と、楽しみの音楽というのは本質的にどこがちがいます。

先ほどふれたように、私たち日本人は明治以来、西洋文明の影響のもとにそれを取り入れて生活を西洋化してきました。チョンマゲを落とし、刀を棄て、靴を履いて、今ではほとんど変わりないような生活をしています。ただ、人が抛つて立つ精神的支柱というものが欧米とは根本的にちがうということです。

洋才には洋魂がある。洋才と洋魂は不即不離なのだと思えます。ですから欧米人がバッハの音楽を聴くとき、耳が肥えたクラシックファンでなくても、素朴な児童でさえ自己の根にあるキリスト教的宗教感覚を揺さぶられ、音楽技法上のテクニクや表現力を超えた深いものを感じているのではないのでしょうか。

前にヴェルディのオペラ「運命の力」を聴きにいった、ずっと教会の場面がつづくのに退屈して、途中で出てしまったことがあります。声が素晴らしいと演出が新しいとかいう以前に、どうしてもわからないという感覚があるのです。

欧米人と日本人では、感動する仕方が根底的に違う。そのことを私たちはしだいに理解するようになりましたが、理解はしてもそこには深い溝があります。

ヨーロッパの文明もアメリカの文明もキリスト教文化であり、それ以前にさかのぼると人類にはイスラム教的文化、ユダヤ教的文化、あるいは儒教的文化というものがありました。

世界文化の潮流として見ればパックス・イスラム、パックス・ユダヤ、パックス

ス・儒教、そして近代はやはりパックス・キリストの時代です。これはパックス・アメリカナということではありません。

パックス・キリスト圏以外でも、イスラム教、インドではヒンズー教、社会主義中国では道教的な信仰が今も息づいているように、世界各国の人たちはそれぞれに自分たちの神を持っています。

しかし日本はフランシスコ・ザビエルが来てから四百五十年たつても、キリスト教人口はそれほど多くはなく、おとなりの韓国で多くの人びとがキリスト教徒になったのと対照的です。その点では、韓国の方が洋魂洋才で西洋文明を丸ごと取り入れ、これからもつと欧米に近いものになるのかな、という感じもします。

クラーク博士の「Boys be ambitious」という言葉は有名ですが、彼は明治初期に札幌農学校初代教頭に招かれたというだけでなく、もともと日本の若者たちを全てキリスト教に回心させようという強い情熱を持って来日しました。

教え子たちに聖書を配り、キリスト教的な教育を施したからこそ、そのもともからは優れた日本人キリスト者が何人もでてきます。ですからクラーク博士の本心は、(神の御わざを地上に実現することにおいて) 少年よ大志を抱け、だったのであって、末は博士や大臣とか、立身出世して成功せよという話ではありません。

私は、それは単なる誤解というよりも、やはり日本の文明の根本にある和魂洋才の姿勢ゆえだと思えます。

夏目漱石は「西洋の猿真似」をして「上滑りに滑って行」くという形の文明開化に対して、日本人の本質を鋭く見抜きました。彼は、「これでいいのか」という警告を発しながら、一方では「涙を呑んで」そうするのだとも書いています。

おそらく日本人は、どこまで行つても「才だけ真似て、魂は和魂でいこう」という考え方なのではないのでしょうか。

キリスト教を抜きにして表面だけコピーしつづけることでは、明治以来、日本人は他に例がないくらい上手くなりました。ただ、そうして根のないカルチャーを花として活け、身にまといつづけるということをこれから先もずっとつづけていけるのか、どこかで破綻するのかもしれない、そういう危機感を感じないではいられません。

(五木寛之『人間の覚悟』)

問 傍線部「才だけ真似て、魂は和魂でいこう」とはどのようなことを本文に即して説明した上で、それに対する意見を、自分自身の知識や経験をふまえて、解答用紙に八〇〇字程度で述べなさい。

- 1) 課題図書『聖書考古学—遺跡が語る史実』（長谷川修一著）を読んで、古代イスラエル史にとっての聖書学と歴史学（古代近東学）そして考古学の関係を著者がどのように考えているか、具体的な例を挙げて、500字以内でまとめなさい。
- 2) 上記の内容をふまえて、著者の見解に対するあなたの考えを300字以内で述べなさい。